

緩降機 スローダン125

取付金具

【A型・As型】

取扱説明書

この取扱説明書は、緩降機【スローダン125】の取付金具【A型】【As型】の取扱上の注意事項、及び保守管理上の注意事項に関して記述したものです。常に本体と一緒に保管し、活用して下さい。

〔目次〕

1. 概要	1
2. 外観図及び構成部品名称	2
3. 操作説明	3
(イ) 正しい使用方法	■ 3
(ロ) 正しい収納方法	■ 6
(ハ) その他の注意事項	■ 6
4. 保守管理	7
(Ⅰ) 防火管理者の責務	■ 7
(Ⅱ) 法定点検	■ 7
(イ) 点検時期及び点検事項	■ 7
(ロ) 点検内容の詳細	■ 7
(Ⅲ) その他の注意事項	■ 7

1. 概要

「A型」「A s 型」取付金具とは、一般構造用圧延鋼材(S S 4 1 J i s 3 1 0 1)、一般構造用炭素鋼管(S T K 4 1 J i s 3 4 4 4)を主材料とし、一般構造用炭素鋼管をピン継手で接続した折畳式の三角形のアームを有した「スローダン125」取付金具です。

設計荷重3900N(390kg)以上に充分耐え得るよう設計し、又、充分な品質管理の基に製造しておりますが、恒久的なものではありません。常日頃の点検をお願いします。

機種としては下記の4機種で、室内型と防水型があります。

A 型 —— アームがヒレに対して直角に付いているタイプ
(2項の外観図参照)です。

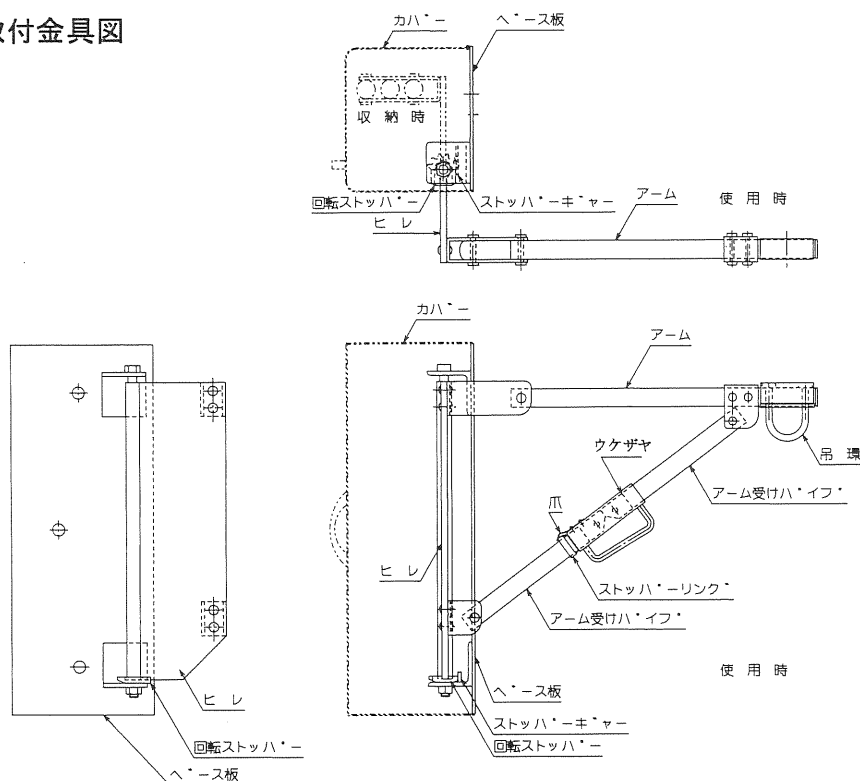
A s 型 —— アームがヒレに対して平行に付いているタイプ
(2項の外観図参照)です。

ベース L 型 —— A型のベース板をL型又は箱型に変形したタイプです。

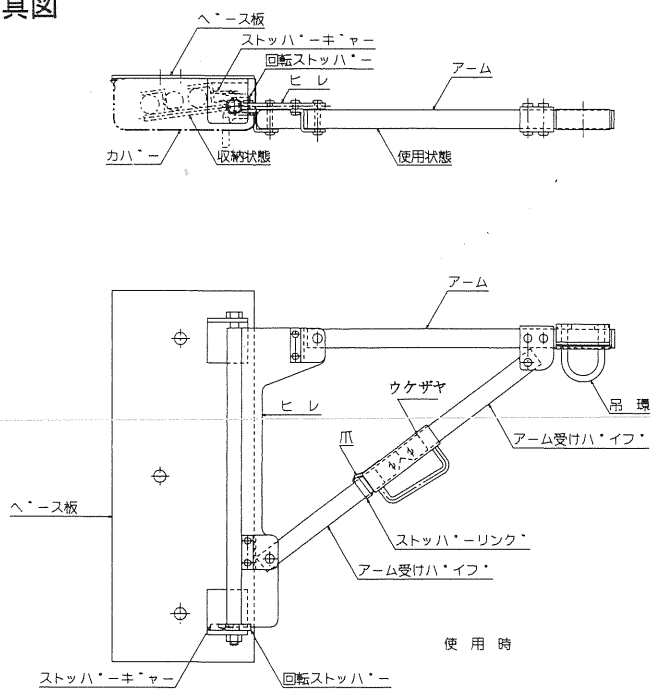
カバー取外型 —— A型、A s 型共通で、カバーを取り外して使用するタイプです。

2. 外観図 及び 構成部品名称

A型取付金具図



As型取付金具図



3. 操作説明

いざ『火事だ!』という時に使用方法が分からなければ避難が出来ず、宝の持ち腐れとなってしまいます。いざという時に思わず使用出来るよう、日頃の訓練をお勧めします。

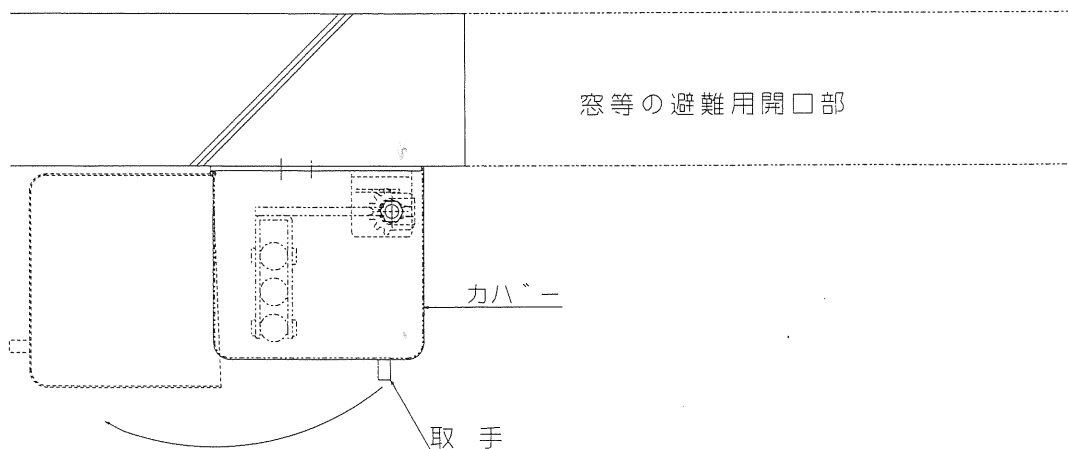
緩降機「スローダン125」に関しての操作方法は、別冊の取扱説明書を参照して下さい。

(イ)正しい使用方法

この取付金具を使用して避難する為に、下記の操作手順及び注意事項を遵守して、正しい操作を行って下さい。又、ヒレの形状、アームの出る方向、ベース板の形状、カバーの取付方法、室内型と防水型の違いはあっても、すべて同じ操作方法で使用出来ます。

操作手順〈1〉窓、扉等の避難用開口部を開けて下さい。

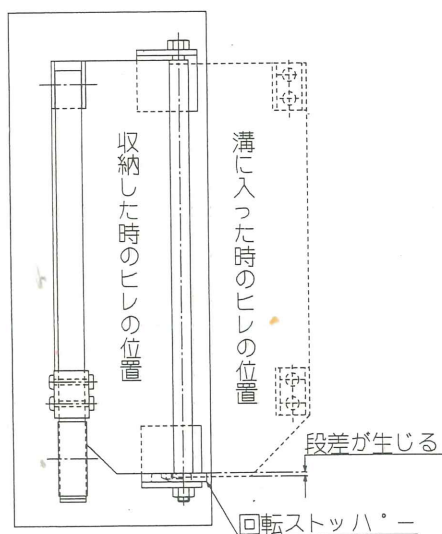
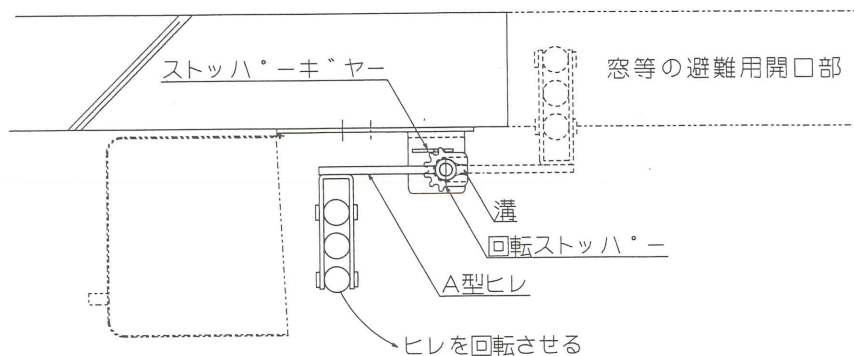
操作手順〈2〉「取手」を引いて「カバー」を開けて下さい。



パッチン錠が付いている場合は、パッチン錠を外してからカバーを開けて下さい。

カバー取外し式の場合は、取手を手前に引いて外して下さい。

操作手順〈3〉「ヒレ」を、「回転ストッパー」に刻まれている溝に入るまで、回転させて下さい。



ヒレが回転ストッパーの溝に入ると少し下がります。

⚠ 注意

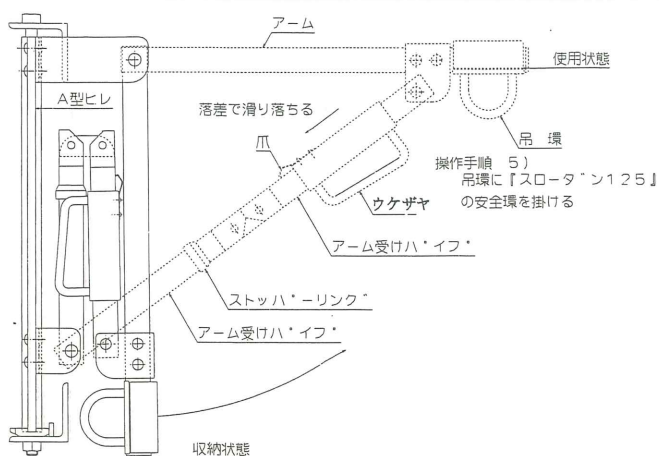
収納する時は、ヒレを持ち上げ、必ず溝から外して収納して下さい。

操作手順〈4〉「アーム」の先端を振り上げて下さい。

「アーム」の先端を振り上げると、折りたたまれた2本の「アーム受けパイプ」は一直線になり全体が三角形に組み立てられます。

⚠ 注意

この時、折れ曲がり防止の「ウケザヤ」は、「アーム受けパイプ」中央部に落差により自然に滑り落ち、ずれ止め用の「爪」が、「ストッパーリング」に掛かるようになっていますが、**万一「爪」が掛からない場合は手でずらし、「ストッパーリング」に掛けて下さい。**



*「アーム」を振り上げる時に障害（窓枠等にあたる）がある場合、「ヒレ」をある程度回転させ、「アーム」の先端を持ち、障害をかわした後に、「アーム」を組立て、「ヒレ」をさらに回転させ、「回転ストッパー」の溝に入れると、楽に操作が出来ます。又、「アーム」が長い場合も同様です。

操作手順〈5〉「スローダン125」の安全環を取付金具の「吊環」に確実に取り付けて下さい。

*「アーム」が長い場合は、操作手順〈4〉*印の操作の『アームを組み立てた』後に、「吊環」に「スローダン125」の安全環を掛け、「ヒレ」をさらに回転させ、「回転ストッパー」の溝に入れる事も出来ます。

以上で【A型】【As型】取付金具の操作は終了、以後は別冊の「スローダン125」の取扱説明書に基づき、操作して下さい。

(ロ) 正しい収納方法

操作手順〈1〉「スローダン125」の「ロープ」を「リール」に巻取った後(「スローダン125」取扱説明書の「正しい収納方法」を参照して下さい。)、**「アーム」の「吊環」から「スローダン125」の安全環を外して下さい。**

操作手順〈2〉**「爪」を「ストッパーリング」から外し、「ウケザヤ」を上にならして下さい。**

操作手順〈3〉**「アーム」の先端に手を添えて、反対の手で、「ウケザヤ」の取手を持ち、「アーム受けパイプ」を折り曲げ、ゆっくりたゝんで下さい。**

⚠ 注意

収納する時は、必ず「アーム」先端に手を添えて下さい。手を添えずに「アーム受けパイプ」を折りたゝむと、「アーム」が急に落ち、指等を挟んで怪我をする恐れがあります。

*「アーム」が長い場合は、「ヒレ」を持ち上げ、「回転ストッパー」の溝から外し、「アーム」をある程度近づけてから、「スローダン125」の安全環を外すと、楽に操作出来ます。

⚠ 注意

上記操作を行うときは、必ず「ヒレ」を持ち上げ、溝から外してから行って下さい。「ヒレ」が「回転ストッパー」の溝に入ったまま「アーム」を無理に引っ張ると、「ストッパーギヤー」が破損する恐れがあります。

操作手順〈4〉**「ヒレ」を持ち上げ、「回転ストッパー」の溝から外し、「ベース板」と平行になるまで、回転させて下さい。**

操作手順〈5〉最後にカバーを閉めて下さい。

⚠ 注意

防水型の場合にカバーを閉め忘れると、腐食の原因になりますので、ご注意ください。

(ハ) その他の注意事項

下記のような行為は、絶対にしないでください。事故や故障の原因となります。

⚠ 警告

- ① 荷物の運搬や、窓の清掃など、**『避難の目的』以外に使用する事。**
- ② **設計荷重3900N(390kg)以上の荷重使用する事。**

4. 保守管理

(I) 防火管理者の責務

「取付金具」も、緩降機「スローダン125」と同様に、防火管理者の責務(消防施工令第4条)として、消防法第17条3-3により「スローダン125」の取付金具の定期点検を行い、且つ、消防長、又は消防署長に点検結果を報告する事が定められております。上記規定による報告をせず、又は虚偽の報告をした場合は消防法第44条7-3により罰せられます。

(II) 法定点検

[イ] 点検時期及び点検事項

点 検 時 期	点 検 事 項		
	点 検 対 象 物	点 検 内 容	種 別
6 ヶ月に1回以上	取 付 金 具	1. 損傷、腐食等の目視検査 2. 取付金具の作動状況 3. 取付固定部材の状況	機 能 点 検

[ロ] 点検内容の詳細

- ①点検業務は、消防設備士、又は消防設備点検資格者等の有資格者が行って下さい。
- ②損傷、腐食等の目視検査とは、取付金具、取付固定部材等の金属部の損傷及び錆の発生の有無を目視で検査する事を言います。
- ③取付固定部材とは、取付金具を建物等に取り付けた「ボルト」及び「ナット」の事を言い、点検時には、損傷、腐食等の有無の確認、及び所定のトルク値 {概ね40～45N・cm (400～450kgf・cm)} にて引抜強度の確認をして下さい。
- ④点検時に異常が認められた場合は絶対に使用しないで下さい。その場合には、速やかに保守点検契約者、又は施工者(避難器具の施工業者)に点検・整備を依頼して下さい。

(III) その他の注意事項

- ①上記法定点検以外にも、**随時建造物との取付状態及び腐食に留意し、異常を認めた時は、絶対に使用しないで下さい。**その場合には、速やかに保守点検契約者、又は施工者(避難器具の施工業者)に点検・整備を依頼して下さい。
- ②建造物の新築、増改築等による取付場所の移動の際は、所轄の消防署に届け出が必要となりますので保守点検契約者、又は納入者(避難器具の施工業者)にご連絡下さい。

保守点検業者連絡先

納入業者連絡先

製造者連絡先



株式
会社

消防科学研究所

本 社 東京都中央区日本橋小舟町4番11号 第2南川ビル
〒103-0024

TEL 03-3665-0451

FAX 03-3665-0454

大阪支所 大阪市中央区久太郎町1丁目2番16号 三星中央別館801号
〒541-0056

TEL 06-6261-4578

FAX 06-6261-4568